わかさ 議会だより

平成23年２月
第135号

颯爽と駆ける若桜鉄道

12月定例会

P.2　新年のあいさつ
P.3　中学生までの医療費助成を条例化！！
P.6～13　一般質問Q＆A　過去最多の８名
P.14　委員会活動報告
P.16　わたしの想い（上川さん、山根さん）

新年のごあいさつ

議長　岡本　和廣

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様が、平成23年の輝かしい新春に希望を託し、新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今年が皆様にとりまして、良い年でありますようご祈念申し上げます。

昨年は、春先の低温、夏季の記録的な猛暑から農作物に甚大な被害が発生したうえに、シカ、イノシシの獣害被害が追い討ちをかけ、生産意欲が壊滅したと言っていいほどの被害をもたらしました。さらには熊による人身被害も発生し、熊目撃情報は昼夜問わず頻繁になり、住民生活に大変不安を与えた一年でもありました。今年はしっかりとした被害防止対策をおこない、人身被害防止はもとより、耕作放棄地が拡大しないよう取り組まなければと考えています。

今年一番の課題は、小中一貫校問題ではなかろうかと思います。教育指導内容の充実はもとより、校舎増改築は少子化で10年後には児童・生徒数が半減する予測のなか、若桜町小中一貫校で教育を受け、学力向上に資する教育環境を作らなければと考えています。

また、昨年友好交流協定を結んだ韓国・平昌郡（ピョンチャングン）とは、お互いの議会どうしで交流を深めていきたく思っています。

議会基本条例に基づいて開催した、初めての議会報告会には、多くのご参加を賜りありがとうございました。定例会での一般質問者も9月では6人、12月では8人が、町長、教育長に対し、町政の課題を活発に質問致しました。議会活性化の糸口が少し見えた思いがしております。今年も執行部と対等な関係を保ちつつ、お互いが議論して、皆様の福祉向上に寄与しなければと、あらためて初心を問い直した新年であります。

若桜町にとっては少子・高齢化から来る様々な活力低下、また政府が突如言い出した中山間地域の農林業の崩壊につながるＴＰＰ・環太平洋経済連携協定（議会では協定参加に反対する意見書を政府関係者に提出）等課題が沢山ありますが、慣れ親しんだこの町で暮らしたいという思いに応えるべく、不断の改革意識を持って、今年一年努力いたします。

どうか皆様のご指導・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。

12月議会定例会提出議案

中学校卒業までの医療費助成を条例化！！

平成22年第9回若桜町議会定例会は、12月14日に招集され、条例、補正予算など町長から提出された11議案、議員提出議案6議案を慎重審議の結果、原案どおり可決し、12月20日に閉会しました。

条例

◎若桜町男女共同参画推進条例の制定について

男女が対等な立場であらゆる分野に参画し、心豊かで活力ある若桜町を目指すため。

◎若桜町特別会計条例の一部改正について

若桜町若桜鉄道運営助成基金条例の廃止。

◎若桜町特別医療費助成条例の一部改正について

県条例の改正により、中学生までの医療費助成を条例化した。

予算

◎平成22年度一般会計補正予算（第5号）

３１８９万円を追加し、総額29億９５６２万円とした。

主な歳入

地方交付税　７００万円
障がい者自立支援給付費等負担金　５１３万円
保険基盤安定県負担金　１９１万円
森林保全総合対策事業補助金　８００万円

主な歳出

議員報酬・期末手当等　△４０５万円
一般管理費人件費　△１０９９万円
国民健康保険事業特別会計繰出金　１７４４万円
特別医療費　５９０万円
観光事業費　78万円
道路維持費　２８８万円
県スポレク祭　１１０万円
障がい者支援費　６８４万円
社会福祉総務人件費　２９１万円
有害鳥獣駆除対策補助金　51万円
森林整備事業補助金　８００万円
非常消防費　32万円
町営住宅管理事業　48万円
県営林道整備事業　３１９万円
インフルエンザ予防助成　21万円

◎国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）

一般・退職被保険者療養給付事業、負担金等により３６４４万円を追加し、総額５億５３９万円とした。

◎介護保険事業特別会計補正予算（第2号）

地域支援事業交付金等74万円を追加し、総額５億１６３７万円とした。

◎後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）

納付金追加分７万円を追加し、総額５１０８万円とした。

◎簡易水道事業特別会計補正予算（第4号）

若桜簡水拡張改良事業費等４２４万円を追加し、総額９１７８万円とした。

八幡山の配管工事箇所

議員提出議案

◎「環太平洋戦略的経済連携協定」（TPP）に参加しないことを求める意見書

◎「食料・農業・農村基本計画」に沿って、実効ある施策の推進を求める意見書

◎住民の安心、安全を支える行政サービスの拡充を求める意見書

◎島根原子力発電所の早急な耐震補強対策を求める意見書

◎2011年度国家予算に関する意見書

いずれも原案を可決し、関係各大臣、両院議長へ、意見書を提出した。

◎教育民生常任委員会の閉会中調査研究について

・伝統的建造物群（文化財）保存の先進地調査。

・ごみ処理等生活環境改善の取り組みの先進地調査。

（倉吉市・他）

その他

◎鳥取県東部広域行政管理組合規約の一部変更について

ふるさと市町村圏計画の策定、事業実施の連絡調整、広域的活動計画に基づく事業の実施に関する事務。

⬅改訂

地域振興事業の実施に関する事務。

人事

◎若桜町教育委員会委員の任命について

田中修一さんの任期満了に伴い、赤松団地の谷口秀昭さんを任命することに同意した。

谷口秀昭さん

議会臨時会

平成22年10月25日

◎若桜町過疎地域自立促進計画の策定について

本町の将来に向けて、すべての住民が「健康で文化的な生活を営むことができるまち」を基本に、平成22年度～27年度において、活力と魅力あるまちをつくる自立促進計画を議決した。

議員提出議案

◎総務産業常任委員会の閉会中の調査研究の変更について

林業視察地を三重県飯南町へ変更のため。

平成22年11月26日

条例

◎若桜町特別職の職員の給与及び旅費に関する条例等の一部改正について

◎若桜町職員の給与に関する条例の一部改正について

平成22年8月10日に提出された人事院勧告に基づき、国家公務員の給与が引き下げられたことに伴い、社会情勢などを勘案し、「若桜町特別職、一般職の給与及び旅費」及び「教育長の給与及び勤務時間等」に関する条例の一部改正を行うもの。

議員提出議案

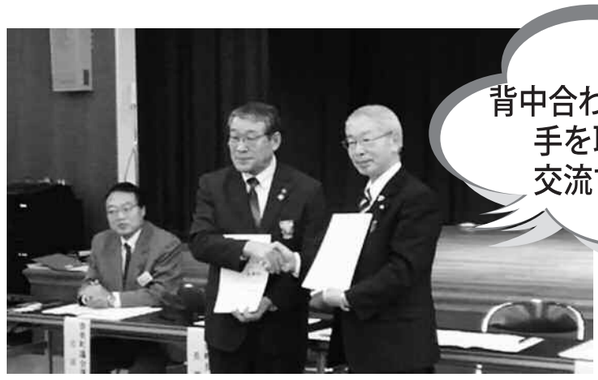
◎若桜町議会の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

現下の社会情勢などを勘案し、期末手当の減額をするもの。

「香美町・若桜町国道482号早期整備完成を進める会」の設立

平成22年12月22日

兵庫県香美町において、両県の県議会議員、両町長・議長・議員が参加し、共通の利益を確保増進するため、国道482号早期整備完成に必要な事項の調査研究、要望、請願などを行う期成同盟会を設立した。



小中一貫校調査特別委員会調査研究報告

1．日　　時　平成22年11月1日（月）

2．調 査 地　愛知県海部郡飛島村「飛島村立小中一貫校飛島学園」

3．調査の目的　一貫校設立までの経過、学校施設の概要、住民の声、今後の課題について

4．参 加 者　議員９名、議会事務局1名、担当課職員１名　計11名

5．調査内容

＊飛島村の概要

愛知県の西南部に位置し、南伊勢湾の最北部に面した面積22.53k㎡、海抜マイナス1.5m、人口4,389人の村であり、一般会計本年度予算は45億円。自主財源が38億円で全体の85.8％と地方交付税ゼロの豊かな村である。

＊飛島村小中一貫校教育の調査

久野村長、服部村議会議長、水谷教育長、位田校長他から提供資料の説明を受け、質疑の後、施設見学をした。

研修の様子

6．感　　想

久野村長がリーダーとなって、小中一貫教育で異学年交流を実践するための「ふれあいホール」、「メディアホール」など、様々な学習形態に対応できる学年ユニットを配置。最適、最新の施設構造となっており、ふるさとを愛する児童・生徒を育成するにふさわしい学園環境であった。

災害時における避難施設を担う防災拠点機能を有する施設、村内の核施設で村民の心をつなぐ文教施設であった。豊かな村の財政状態から成し得る環境整備と羨望した。

陳情書・意見書審査結果

12月議会定例会において常任委員会に付託した陳情は、慎重に審査が行われ次のとおり決定しました。

番　号	受理年月日	件　　名	陳情者等	付託委員会名	審査結果
陳　情 第17号	平成22年 9月21日	国産材加工施設用地借地料減額についての陳情書	若桜木材協同組合 理事長　長尾　範通	総務産業 常任委員会	採　択
陳　情 第18号	11月16日	環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）の参加に反対する陳情書	農民運動鳥取県連合会 代表者　東田　久	総務産業 常任委員会	採　択
陳　情 第19号	11月19日	「食料・農業・農村基本計画」に沿って、実効ある施策の推進を求める陳情書	全日本農民組合鳥取県連合会 会長　田中　宏、他	総務産業 常任委員会	採　択
陳　情 第20号	11月19日	住民の安心・安全を支える 行政サービスの拡充を求める陳情	鳥取県国家公務員労働組合 共闘会議　議長　山岡　英之	総務産業 常任委員会	採　択
陳　情 第21号	11月24日	島根原子力発電所の早急な耐震補強対策を求める陳情書	反核・平和の火リレー 鳥取県実行委員会 実行委員長　大下真史	総務産業 常任委員会	採　択
陳　情 第22号	11月24日	原子力に依存しないエネルギー政策への転換を求める陳情書	反核・平和の火リレー 鳥取県実行委員会 実行委員長　大下真史	総務産業 常任委員会	趣旨採択
陳　情 第23号	11月29日	2011年度国家予算編成において、教育予算拡充を求める陳情書	鳥取県教職員組合 東部支部 支部長　井上　匡央	教育民生 常任委員会	採　択
陳　情 第24号	12月６日	平成二十三年度若桜幼稚園運営費補助金増額についてのお願い	学校法人若桜幼稚園 理事長　松本　宏思	教育民生 常任委員会	採　択

一般質問 Q&A

12月議会定例会の一般質問は、12月15・16日に8人の議員が町政の課題について質問しました。
質問の要旨と町長他の答弁を要約して紹介します。

詳しくは
若桜町ホームページ ➡ 各課のご案内 ➡ 議会事務局 ➡ 会議録 まで

税保国保広域化 町長の所見は？ 県単位化が不可欠

中尾理明議員

Q 政府は、新たな後期高齢者医療制度案を来年の通常国会に提出する予定です。新制度は町が運営する国保へ75歳以上の後期高齢者を移すと共に、国保の会計を75歳で区分し、当面75歳以上の財政運営を都道府県に任せる。2018年度からは全年齢を対象にした県単位の国保の広域化を進めるというものです。町長はどう考えておられますか。

小林昌司町長
A 若桜町は少子高齢化と過疎化で、所得も低く、保険税の値上げもできない状況です。国保は相互扶助の制度であり、保険者はある程度の規模が必要です。保険財政の安定化、市町村間の保険料負担の公平化等の観点から、国保財政運営の県単位化を進めていくことが不可欠と考えています。

国保税 負担増では？ 医療費が上がれば

Q 私が指摘したいのは、この広域化の狙いが、全ての市町村を押しなべて平均化し、平均的な保険料を設定し、進めるという問題です。予防が第一ですが、医療費負担増もあり、病気になっても、すぐにかかれない、重症化する傾向がこの間の町民福祉課報告等でも窺えます。医療費（保険給付）が増えた場合、一般会計から特別会計へ繰出して措置する時もありますが、こうしたやりくりをしないようにするため等の理由により、広域化するというのが国の考え方であり、県が準備している内容です。そうなると、決められた財政の中で、繰入なしで財政をやりくりする、そのためには保険料を引き上げる（増税）という解決の方法しかなくなるわけです。どんな保険料を設定されるか分かりませんが、所得割で言うと若桜町は平均よりは低い方だと思います。従って、税額が高くなることは明らかであり、若桜町民にとって負担増になると指摘したいと思います。再度町長のお考えを聞きたいと思います。

医療窓口

小林町長
A 高齢者には医療が一番大事であり、医者は切っても切れませんが、高齢化に伴い、2、3人の大きな手術があれば、医療費がぐんと上がります。国保には基金がなく、足らないからどんどん一般会計から国保会計に繰り出せば大変です。国保は目的税なので不公平が生まれます。県内市町村が一緒になって進めることが大事と思っています。

広域化 再考を!! 余裕がない

Q 国保は、法律の第一条で社会保障としての役割を規定し、国民皆保険の柱となってきました。制度保障は、国が責任を持たなければなりません。しかし、現在では国庫負担が半減しており、町長に申し上げる前に、菅首相に物申したい。このような視点から町長の再度の一考を求めます。

小林町長
A 中尾議員の考えにも一理ありますが、私は実際、国保を運営しています。国保会計は余裕がなく、公費負担が増えれば、間接的には町民の増税につながるということになることを理解していただきたいと思います。

中尾議員は、この他「介護保険制度問題」、「住宅リフォーム助成制度提案」について質問されました。

幼保一元化 課題、移行計画は 子どもを対象とした視点で

坂本 等議員

Q 3月の施政方針で、幼稚園と保育所の双方の特徴を生かした幼保一元化の準備をしたい、と述べられています。
また、国は幼保を一体化する「こども園」構想を打ち出しています。
一元化構想を伺います。

小林昌司町長
A 少子化の急激な波が押し寄せる中で、保育所と幼稚園を同じ施設で双方の良い点を併せ持った保育、幼児教育が必要であり、将来を見据えて前向きに取り組みます。

Q 一元化への課題と移行する年次計画はどうですか。

小林町長
A 保育所は町立、幼稚園は私立であり、検討協議が必要です。福祉、教育という縦割りではなく、子ども対象とした視点が重要です。国の幼保システムができれば早い時期に双方で話を進めたいと思います。

シルバー人材センター 高齢者の生きがいに!! 設立に向けて検討

Q センターの使命は、高齢者が経験、技術等を生かし、仕事を通じて自らの生きがいを実現していただくための就業先を確保し提供することです。
鳥取県内の設立状況と設立の是非及び課題について伺います。

小林町長
A 県内で設置されていないのは若桜町だけです。
今年7月、若桜町社会福祉協議会のアンケート調査で、参加したい世帯が145ありました。
課題は、事業運営の主体をどうするのか、仕事量の確保、技術料と労賃の問題等が想定されますが、家のちょっとした修理、障子張りなどを頼みたい人のためにセンターは必要だと思っています。

Q 市町村が直接運営するものではありません。早速、町民に対して積極的に提言、指導されてはいかがでしょうか。

小林町長
A 設立に向けて検討したい団体もあり、社福と連携して町も積極的に支援したいと思います。

熊対策 学習放獣の効果は？ 再出没減少

Q 近年、えさ不足のため集落内に出没しています。人身被害を防ぐために効果的な対策が急がれます。
本町における熊の出没と捕獲の状況を伺います。

小林町長
A 今年役場への情報は58件65頭。赤松9件、岩屋堂8件、大炊7件、中原5件など、捕獲は6頭、いずれも学習放獣している。平成20年、21年とも捕獲1、放獣1です。

集落に出没（吉川）

Q 檻で捕獲し山奥に放す学習放獣をしていますが、これの効果を伺います。

小林町長
A 放獣時、爆竹・とうがらしスプレー等により威嚇し、人を忌諱する効果を期待しています。県の追跡調査では放獣した熊が、再び捕獲されるのは20％で、民家等に近づく確立が減少しています。

Q 他町村のような殺処分はできないものですか。

小林町長
A 保護とのジレンマを抱えますが、殺処分は学習放獣の効果が見られず、集落周辺に執着し、再出没や人の居住地への侵入、人身被害が発生した場合などです。

Q 徐々にでもドングリの生るブナ、ナラ等の植林、山と人里との緩衝地帯を再生してはどうでしょうか。

小林町長
A 植樹活動などは、保護だけではなく、水源涵養林など幅広い活動として、ボランティア団体や、都市部との交流事業など民間に任せていき、用地の提供、財政的に支援したいと思います。

一般質問 Q&A

詳しくは
若桜町ホームページ ➡ 各課のご案内 ➡ 議会事務局 ➡ 会議録 まで

旧池小 有効活用は？ 遅れている

山本晴隆議員

Q 9月定例会でITTRの研修会を12月頃行う予定と言われましたが、どのようなスケジュールで進んでいるのかお尋ねします。

小林昌司町長

A ITTRの研修の最新状況は、楽天の新人社員研修の問い合わせがあり、来年4月から6月中旬にかけて18日間から50日間に分けて行う計画で、延べ、910人の宿泊が想定され、相当の経済効果が見込めます。

積極的に受け入れ体制を考え、その旨を伝えているが、当初の計画よりかなり遅れています。早急に実現し、地域振興につながる事を期待しています。12月10日に、社長が来町され打ち合わせをしましたが、まだ校舎の施設整備をして無いので氷ノ山での宿泊、送迎を、担当課と検討しています。

Q 具体的な話は詰められていないのですか。

A 具体的な事は詰めていないが、提示された内容、宿泊先からの輸送費、受け入れ体制等を考えています。利用料が高いと、他に決まる可能性もあり、将来も考えながら施設整備を検討しています。

Q 体育館は、有事の際、避難所にすれば、老人や障がい者の方々が利用しやすいと思いますが。

小林町長

A 研修が常にあるかが問題で、併用的に例えば、関西方面からの合宿で利用する場合、全体を利用する事も十分考えられます。

利用方法も総合的に考え担当課と進めています。

中原保育所 地元雇用は？ できています

Q 宍粟市の企業が利用されるお話でしたが、具体的な内容と外国人の雇用があるかお伺いします。

小林町長

A 会社名は、志水工業所で、学生体操服の縫製と仕上げと伺っています。

大体15人ぐらいの雇用を予定し、募集が少なければ外国人雇用もあります。当初、4人での開業予定でしたが、今現在5人の希望者があり、1月には始業する準備を進められています。

Q 将来、高齢者、障がい者向けのサービス計画があると言われましたが。

A これからの問題で、社長夫人が調理士の免許を持っておられ、高齢者の配食や食料を販売し地域の皆さんに貢献したい思いです。当面は本業の縫製に全力を尽くされる考えです。

小林町長

ツキノワグマ 殺処分できないか 対応も可能

Q 他の市、町では、ツキノワグマを殺処分されている例もある。本町でも独自の駆除対策を取るべきと考えますが。

小林町長

A 県が策定したツキノワグマ保護管理計画に基づき対応しています。

殺処分の対応はできるが、計画に沿って、対象外と判断し学習放獣しています。

今年は6頭の捕獲で、例年より多いが八頭町などと比べ低い数と考えています。他と同様の状況なら駆除対策を講じる半面、緊急事態であり、新年度にむけ即時対応できる体制を構築したいと思っています。

Q 捕獲された熊は、発信機などは取り付けられていますか。熊が民家に近づくと警報音が鳴るような装置を県で開発されているようですが、本町も導入されてはどうでしょうか。

近藤一彦産業観光課参事

A 学習放獣をする熊は、発信機をつけて放獣をしています。開発中の発信機は、熊の電波を受信し、回転灯や警報音が鳴る装置で、試験的に導入できる話があります。現在設置箇所も未定で検討段階ではありません。

仮に装置し、電波をキャッチしても居場所が分からないので、住民の不安をあおる可能性もあり、慎重に判断したいと考えています。

町内陳情 進捗状況は？ 大事にできるものから

前住孝行議員

Q 3月の諸鹿、6月の氷ノ山スキー場、9月の屋堂羅に関する陳情等の、現在の状況を伺います。

小林昌司町長

A 諸鹿の陳情

・町道沢川山麓線改修は、補修済みです。

氷ノ山スキー場の陳情

・イヌワシからスノーピアへの連絡道は、新年度には測量して具体的な話を進めます。

・第1駐車場よりスノーピア入口までの歩道は、研究検討中です。

・第1駐車場からアルパイン入口までの消雪装置の設置は、工事発注しています。

屋堂羅の陳情

・屋堂羅川稗田山ノ神橋護岸基礎復旧工事は、H23年2月中旬までには修繕します。

・屋堂羅川大畑の護岸嵩上げ及び河床掘削は、現状のまま河床を下げられません。

・河川改修は、継続して要望中です。

・屋堂羅移動通信鉄塔整備に伴う管理道路の町道編入早期実施は、現在検討中です。

・屋堂羅地区の土砂災害警戒区域、急傾斜地の崩壊の早期整備実施は、県に要望中です。

韓国交流 具体的な構想は？ スポーツ交流などを中心に

Q 今後、韓国の平昌郡との交流がどのように発展するかお尋ねします。

小林町長

A 今後、教育、観光など様々な分野での幅広い交流ができると考えます。特に、児童・生徒の交流や異文化の体験、スキーなどを通じたスポーツ交流にも取り組みたいです。

案内表示 様々な言語を加えていきます

Q 国際的な観光客の受け入れ態勢として、観光パンフレットや案内表示を各国の言語で案内してはどうでしょう。

小林町長

A 現在、観光パンフレットは日本語、韓国語、英語、中国語の4種類がありますが、内容の不十分なことが分かりました。見直して新たなパンフレットの作成やホームページにも韓国語表記を作成したいと考えます。

また町内の案内表示板は、韓国語の表記も加えるよう検討を進めます。

小中一貫校 スポ少と部活動の連携は？ 検討したいです

Q 既存のスポーツ少年団と中学校での運動部の連携が図れない部分について、小中一貫校でもこのままでいくつもりなのか所見を伺います。

植嶋荘司教育長

A 卓球は、部活動がございません。部活動の人員編成について規定を設けておりますが、このスポーツ少年団、部活の連携につきましても検討したいです。

バスケットを楽しむ青年たち

Q 住民の中で、ミニバスケットボール部を作ってはという声が挙がっています。学校体育と社会体育の連携にもなっていて、大学など若桜を離れることがあっても、連携していれば若桜に帰ってきやすい現状があります。

個人競技 発揮する環境は？ 総合的スポーツクラブでも

Q 今、中学校の部活動には個人種目がありません。個人競技で能力を発揮する環境が整っていないように感じます。このことについて所見を伺います。

植嶋教育長

A 個人の能力を伸ばすという点については、よりよい環境ではないと思います。「総合型のスポーツクラブ」でできないか検討してみたいと考えます。

一般質問 Q&A

詳しくは
若桜町ホームページ ➡ 各課のご案内 ➡ 議会事務局 ➡ 会議録 まで

職員統括 統括の手法は？ 相互に連携、協議

藤原源市議員

Q 平成18年小林町長就任所信表明では、自分たちで考え、自分たちで決め、自分たちで責任をもって実行する「活力あるまちづくり」を表明され、自らトップセールスとして行動されたことに対して敬意を表するものであります。

22年2月の再選時は「みんなで一緒に創るまちづくり」を前面に6つのスローガンを掲げ、現在奮闘中でありますが、まちづくりの推進役は、職員の双肩にかかっており、行政職員の意識改革を重点に行い、スピードある行政、民間企業感覚を導入し、きめ細かい指導を行う決意を述べられました。しかし、最近職員には、よく指示しているんだけど等の愚痴とも取れる発言をよくされますが、全般的に行政を統括している手法についてお尋ねします。

小林昌司町長

A 質問の要旨について相当悩みました。この議会の場で職員を腐すことはできませんし、困るのは最高責任者でございますから。

普段から問題意識をもち、業務に専念する必要性を指導しています。特に、組織の中で決定したことは、職員が相互に連絡、協議を密にして、住民のために行政運営をするよう指導しています。

愚痴を言っているつもりはありませんが、職員とのキャッチボールの中途で球が返っていない状況を表現したものであります。常に熱い情熱を持って仕事に当たっているか、スピードはあるか、特に管理職には、部下を見る前に自分をしっかり見て、課の仕事の段取り、計画や事前準備、手順や展開、方向性の管理、効率を考え、組織の仕組み、部下の育成指導がなされているか等指揮監督を続けて住民の福祉のために尽くしていきたいと考えています。

6課制 機構改革の効果は？ 人事考課に反映

Q 行政機構強化のため、副町長の設置。農林建設課の業務が広すぎて管理不足となる。総務課は、議会前に予算編成の業務が集中するので企画財政課に移し、各担当課の調整や問題解決、防災、財産の管理を行い、町長部局を6課制としてスリム化する。その中で人事考課を実施し、行政サービスを行う改善改革されましたが、実施後の進捗状況をお尋ねするとともに、人事考課の実態をお聞かせください。

小林町長

A 若桜町では、平成20年から常勤職員を対象に人事考課を実施しており、能力効果、実績効果を判断し、管理職も行っています。具体的に効果があったと明言できるものはありませんが、人事考課により、職員が自らを振り返る機会ができ、年月が経過するごとに成果が上がると期待しています。

実績指数は、21年度は勤勉手当を減額した職員、増額した職員の割合は16・9％で、本年度は22・1％となっています。

鳥獣害対策 適した頭数は？ 連携して頭数削減へ

Q 被害額調査によると、猪17万円・鹿45万円・熊5万円の被害届けですが、若桜町の非農家等を含めた被害把握、また環境破壊被害等を考慮した対策、県日本シカ保護管理計画書に基づく生息調査と民間を含めた対策をお願いします。

鹿の被害拡大!!

小林町長

A 鳥獣被害は深刻な問題と捉えており、鳥獣頭数削減に向けて集落での対策、猟友会との連携、特に鉄砲の登録費用、捕獲補助等を新年度予算に反映したいと思っています。

告知機 IP端末 専門職員の配置は？ 検討します

奈羅尾寿夫議員

Q 毎日の行政情報・緊急時の防災対策等の情報は誰が流すのですか。また、端末機を利用した情報提供や監視カメラの運用は、専門的な知識が必要です。

専門の職員を配置される予定はあるのか、お伺いします。

小林昌司町長

A きめ細かな情報を提供し蓄積できますので、随時、提供します。

緊急時、災害時の防災対策情報について昼間は、総務課の方で対応し、土、日、祝祭日は、防災無線を利用します。業務委託をするのか、専門員を配置した方が良いのかを検討していきたいと思います。

防災無線 管理の仕方は？ このまま活用

Q 防災行政無線を残していくのであれば、将来的にはデジタル対応も考えているのですか。

また、機器の更新なり、防災無線の残し方・管理の仕方についてお伺いします。

小林町長

A 有事の際には国からの放送が、町の防災行政無線を経由して、住民の皆さまに情報が提供されることになります。停電時や緊急時のために防災無線も現在のまま活用していきたいと考えています。

地域イントラ 光の予備芯利用は？ 無線のIT環境へ

Q 地域イントラの光ケーブルは町の公共施設にすべてつながっています。

以前整備された、光ファイバーの予備芯をどのように利用されるのか、お聞きします。

小林町長

A 今後の活用については、例えば駅や生涯学習情報館、公民館など公共施設で無線によるインターネットができる環境を整備していきたいと考えています。さらに、光ファイバーを利用して町民の福祉の向上につなげていきたいと思います。

除雪機貸出 高齢者でも使えるものは？ 集落で取組を

Q 小型で扱い易い、30㎝程度の雪が除雪できる除雪機を貸し出すなどの支援ができないかお聞きします。

操作の簡単な除雪機

小林町長

A 高齢者や介護を必要とする方に対する支援は地域住民の共助が必要です。支え合い、助け合う地域づくりを各集落で推進していただきたいと思います。

これからは集落内で皆さんが具体的に協議をして、誰がこういうことをしてあげるとか、実際にやっていただきたいと思っています。

Q 都会で生活する高齢者の食事に野菜などの生鮮食料があまり行き渡っていない、缶詰・ラーメンとかの買い置きはできても生鮮品はできない、食事が偏ってしまうとの報道、やはり冬場の食料品の確保については、生鮮品が不足するのではないかと思います。豪雪となったような時の対応等は、どのように考えておられるのか、お伺いします。

小林町長

A 一人暮らしの高齢者、心身機能が低下してきた方は、ともすれば家に閉じこもることが多くなりがちです。とりわけ大雪など非常事態には対策本部を立ち上げて、特別な対応をしたいと、思っています。

一般質問 Q&A

詳しくは
若桜町ホームページ ➡ 各課のご案内 ➡ 議会事務局 ➡ 会議録 まで

地域通貨 地域福祉を活性化 社協などと協議

上川裕見子議員

Q 地域で安心して暮らしていくためには、気軽に「助けて」と言える環境づくりが必要です。「ありがとう」「お互い様」の気持ちが通じる地域通貨システムを導入してはいかがですか。

鳥取市城北地区は、地域通貨「城」を発行され、包丁研ぎやタイヤの交換、子守りなどに使用し、地域内での「地域福祉」が順調に進んでいます。

地域通貨での包丁研ぎ

小林昌司町長

A 高齢者が地域貢献していただける環境整備に努めたいが、現時点ではサービスの対価としての地域通貨の導入は考えていません。大切な意見なので福祉協議会等と協議をさせていただきます。

旧池小の活用策 介護サービスの拠点 総合的に考える

Q 旧池田小学校の跡地利用は、1階部分は小規模多機能型居宅介護施設と、地域で採れた野菜などを使った昼食を楽しめるコミュニティ食堂や、ちょっとした買い物もできる売店を併設、2階部分はITTRの研修生の宿舎、高齢者専用賃貸住宅など、地域介護サービスの中心に据えた活用方法はできませんか。地域が夢を持てるような取り組みをしていただきたいと思います。

お手ごろ価格です！
コミュニティ食堂の
本日のメニュー

小林町長

A ITTRの研修が未決定の時点でいいかどうかの問題もありますが、ITTRが使わない時は、関西からの合宿なども総合的に考える必要があります。まずは、ITTRの問題を優先の後、この問題は整理させていただきます。

小若の跡地利用法 木造で医療施設に 希望あれば支援

Q わかさ生協診療所が老朽化等でかなりの改修費用が必要となり、施設をどうするのかという問題があると聞きました。

宅老所と保育所、放課後児童クラブ等を一緒に運営をする富山方式は、老人が元気になり、子どもはお年寄りからいろんな知恵をいただき、相乗効果が認められ全国的に評価を得ています。本町も近くに保育所や幼稚園もあり、良い環境だと思いますがいかがですか。

小林町長

A 実は生協から建替えをしたい、土地はどうかという問題までは聞いており、支援できることは支援させていただきますと、お話をさせてもらいました。医療施設第一主義で考える問題ですので、跡地の利用希望があれば積極的に考えます。

介護保険料 逆転現象の解消を 策定委員会で検討

Q ご夫婦で生活されている65歳以上の方で、どちらかが課税されていた場合、世帯全体、つまりお2人の合計収入が低い世代の方が高い保険料を払うことになってしまう逆転現象が起きているのではないでしょうか。矛盾をなくすための措置を自治体単独で実施しているところがありますが、本町でも導入を考えてみてはいかがですか。

また、5段階以上は自由に区分が作れますので、不公平が生じないようにご協議願います。

小林町長

A 保険者の判断で非課税層の第4段階を分割して保険料多段階化することが可能であり、介護保険事業策定委員会で検討します。第5期の策定では、町で、できる範囲内のことは逆転現象が起きないようにさせていただきます。

IP告知端末機 お知らせの道具ではダメ 福祉施策などにも

川上　守議員

Q 防災無線と違い、運用についてかなりの量の情報提供が可能になると考えます。運用の方法、内容について伺います。

小林昌司町長

A 毎日のお知らせ、町民体操、時刻表込みのカレンダー、月ごとの行事予定表やイベント情報など提供する予定です。

アンケート調査、また、河川カメラは、町内の20ヶ所に設置し、河川の水位の状況や土砂災害の状況など、監視カメラを通じて確認、防災面でも活用できます。

矢部康樹総務課参事

安否確認、健康確認、保健指導も含め、双方向なので、ボタンを利用したり、カメラを利用して双方顔を見ながらであったり、新たなソフト等も考え、今後検討を進めます。

維持費 概算は？ 1800万円程度に

Q 放送施設、通信施設、線路施設、送受信施設等の施設の規模も決まり、工事の完成を待つばかりになっています。

若桜町として来年度4月から掛かるこれらの維持費の概算を伺います。

小林町長

A NTTに機器使用料やサーバー及びシステムの保守料として2000万円、そしてNTTや中国電力に電柱の使用料として200万円、光ケーブルの保守料に200万円、その他電力代金等2200万円、合計年間に2600万円程度になる見込みです。

一方、収入については、NTTより若桜町の光ケーブルの使用料として、年間800万円支払っていただく予定になっており、差し引き1800万円程度の維持管理経費が、毎年生じることになると考えています。

防災監視カメラ

防災無線 どう使い分ける？ 停電時に必要

Q 防災無線とIP告知端末機の使い分けについて、どのように考えているか伺います。

小林町長

A 停電の際、IP告知端末機は利用できないので、停電時や緊急時のためにも防災無線はこのまま残しておきたいと考えています。また夜間、土・日、祝祭日の緊急放送については当分の間、今まで通り防災無線を利用して情報提供します。

同和対策 総合計画の策定は？ 新年度早めに

Q 現在ある同和対策総合計画は平成23年で期限を迎えます。

この計画は期間を空けることなく策定スケジュールを立てていただきたい、考えを伺います。

植嶋荘司教育長

A 現在、若桜町の総合計画の中でもこの部落差別撤廃・人権擁護に関する計画に基づいた施策の推進を図っているところです。

来年度には、平成24年度以降の計画並びに実施計画も併せ、新年度早めに、審議会、諮問等もあり、その準備に、できるだけ早く取り掛かるようにしたいと思います。

委員会活動報告

総務産業常任委員会

11月12日

◎志水工業の中原保育所使用についての報告

◎議会報告会での意見･要望事項に対して、執行部回答の内容を協議

12月８日　12月議会定例会に向けて

企画財政課

説明　地方交付税が、本年度追加交付される予定である。

意見　交付税は景気対策であり、景気が良くなるように使うべきだ。

Q．町営バス車内でバス停等の案内をしないのか。

A．バス内の放送設備で、運転手が案内するように指導している。

総務課

Q．光ケーブル工事の進捗状況は。

A．外部工事はほぼ終了し、あと宅内配線工事が残っている。

説明　警察官舎の購入は、県と交渉結果678万円で購入した。

Q．ハザードマップの策定状況は。

A．補助金の交付決定がおくれたので、遅くなったが素案ができてから集落に出向きたい。

産業観光課

Q．県営林道の工事は進んでいるのか。

A．根安工区で100m県が発注している。

意見　林道ができるのはいいが、間伐が進んでいない、本当に必要なのか。

Q．町有林の木材の販売先は。

A．搬出先は若桜木材。単価は平均すると１万円／㎥。

Q．氷太くんキャンプ場の水道の維持管理は良好か。

A．水が枯れてきている。水源を変えて改良するようにしている。

説明　韓国旅行者誘致促進事業の受け入れについては、氷太くんと韓国の旅行社と協議中である。

Q．熊の捕獲状況は。

A．６頭捕獲して、６頭とも学習放獣した。

町土整備課

説明
- 国道482号の渕見・茗荷谷のバイパス工事の竣工はH24年10月頃の予定である。
- 町道高野２号線の踏切拡張の認可が下りた。工事着手はできないが、用地交渉を進めたい。

Q．水道の石綿管の記録は正確なのか、また工事は計画どおりに進んでいるか。

A．計画どおりやっていきたい。しかし数回破損事故があった、岩屋堂の改修を早くしたい。

教育民生常任委員会

11月１日　議会報告会での意見・要望事項に対して、執行部回答の内容を協議

12月７日　12月議会定例会に向けて

町民福祉課

病気の分析をして予防を!!

説明

Q．特別医療費が３倍となっている理由は。

A．特別医療の実人数は、H21年度３～４人程度が、H22年は７人。医療費が増えた原因は、通院が入院となっているため。

意見　病気の分析をして予防に努めてほしい。保健センターと連携した対応が必要。

Q．身体障害者受給者証の受領日が、１ヶ月伸びた理由は。

A．「後期高齢の受給者証等の有効期間に合わせて」、「所得によって一部負担金を決めるのに合わせて」という声など、様々な要望に合わせたもの。

意見　若桜町も受給者証の受領日を変更する必要があれば、支給月を変更すればいい。

教育委員会

文化財保護審議会、他との連携は？

説明

○　前回常任委員会後の主な事業経過

Q．文化財保護審議会の奈良県視察は、どこに、どんな目的で視察されたのか。

A．視察先は奈良県の宇陀市で、同じような時期に指定を受け、鬼ヶ城と似ている所。保存管理計画を策定していて担当者の説明を受けた。

意見
- 伝統的文化建造物指定では、産業観光課とも関係するが、各課との連携も必要である。
- スポレクのポール、ビブ(ゼッケン)など、備品管理の徹底をお願いしたい。

順調に進むトンネル工事（茗荷谷）

総務産業常任委員会調査研究報告

１．調査年月日　平成22年11月24日（月）～ 25日（火）

２．調　査　地　三重県松阪市飯南町　「松阪飯南森林組合」

３．調査の目的　提案型集約化施業について

４．参　加　者　委員５名　議会事務局職員１名　担当課職員１名　計７名

５．調査地及び概要　施業箇所　所有者３人　区域面積30ha　路網密度170ｍ／ha　平均勾配14％
最高勾配25％　幅員２～2.5ｍ

① 所有者の要望により、森林プランナーが調査し森林現状により施業プラン提案、所有者は諸条件を承諾し委託申込書を提出し、森林組合は、施業プランにより作業を実施する。

② モデル組合…育成研修を受講した森林施業プランナーが、他に先駆けて地域の特性にあった独自の提案型集約化施業を行っている組合（全国12組合あり）。

③ 伐採、集材の状況（40年生のヒノキが主。胸高直径10～15cm）
高密作業路のため、架線を張らなくてもスイングヤーダのワイヤーを伸ばし補助作業員1人で道端まで集材できる。作業は重機を作業路上で同時に行っており作業路全体を山土場として機能させ効率的な作業を可能としている。

④ 作業路開設状況、地形や土壌の状況にもよるが、作業道と作業路を合わせて200ｍ／ha程度となる。プランナーが山の形状等を調査、方線を決定し、オペレーター１人で作業が出来、1日30ｍを開設する。

感想　林業後継者の育成には欠かせない要件である組合従業員の待遇がよく、安心して仕事ができている。
提案型施業は、事前に収支の結果、作業路の開設や間伐等、施業後の状況が分かるため、林家が安心して施業委託することができる。小規模所有者単独の施業ではなく、まとまった施業団地として機械による共同施業、作業道（路）の開設が経費削減につながり組合員の採算性が改善している。

教育民生常任委員会調査研究報告

１．調査年月日　平成22年11月５日（金）

２．調　査　地　（１）鳥取市立湖南学園　（２）岡山県西粟倉村役場

３．調査の目的　（１）小中一貫教育について　（２）子育て支援策の現状と効果について

４．参　加　者　議員５名　議会事務局職員２名　担当課職員１名　計８名

５．調査事項及び概要　**湖南学園**　**小中一貫教育の実際について**

① 児童生徒数　１～４年生（初等）57名　５～７年生（中等）60名　８、９年生（高等）30名

② 一貫校までの歩み
地域／存続に対する地域の意向
鳥取市／人数の減少に対し義務教育を一体としてとらえる施策及び小中一貫校推進事業の開始準備
平成16～19年　小中一貫校研究推進委員会>検討委員会>推進委員会>鳥取市小中一貫校推進指定校開校
平成20年　構造改革特区許可、開校当初隣接型、一部教員小中兼務一体校舎
平成21年　小中ＰＴＡを統一、一体で小中一貫校開校、全教職員小中兼務体制

感想　カリキュラムがよく工夫され、小中の相互乗り入れの教科が取り入れられている。
教員人事は、小中両方の免許を持つ教員の人事配置を校長が強く教育委員会に要望されている。
ＰＴＡ、地域住民、の総合理解も進んでおり学校との深いつながりを強く感じた。

６．調査地及び概要　**岡山県西粟倉村**　**子育て支援の実際**

① 子どもの人数　０～３歳未満40名　幼稚園児３～５歳36名　小学生56名　中学校　39名　計　171名

② 子育て支援策　・西粟倉村託児所　保育料　月額8000円　・西粟倉幼稚園　保育料　月額2500円
・西粟倉村放課後児童クラブ（月～金曜日）
・つどいの広場「Bambi」週３回、月１回保健師による身体測定や子育て相談

③ その他　・西粟倉探偵クラブ　・あわくら図書館
・予防接種　・子宮頸がん　・ビブワクチン　・子児肺炎球菌ワクチン無料接種

感想　村全体で一貫した、子育ち・子育て・教育のための環境整備を整え、村職員、地域住民、ボランティアの方々が子どもたちをとても大切にされている。厳しい村の財政の中、子育て支援へ予算を投入されている。子どもたちの未来を見据えた積極的な取り組みに深い感銘を受けた。当村のようなきめの細かい子育て支援を、今後とりいれるべきではないかと強く感じた。

わたしの想い

このコーナーは、町民みなさんからの議会、議員や議会だより等に関わる要望や率直なご意見を紹介しています。

経験効果

山根　栄真さん
（大炊）

経験の積み重ねにより一定の範疇で物事の判断がつくことを「経験則」と言う。これが形成されるには、成功・失敗を問わず膨大な経験を積む事が必要となる。

日本のバスケを代表する選手に田伏勇太がいる。彼は小学生から始め、現在に至るまで数々の実績を残している。それはやはり彼が持つ経験則こそが生きているのだと私は思う。

私は若桜中学校バスケ部の練習に参加している。それは私の知識や経験を皆に理解共有してほしいからだ。率直な感想として生徒達は短期間の内にすごい早さで知識や技術を吸収し成長していく。その早さには驚嘆させられる。しかし同時に、もし小学生の時からバスケを始めていたら一体どうなっていただろうかととても感じるのである。

私は若桜にミニバスケットボールクラブを作りたいと考えている。若桜中学校でバスケを始める生徒たちは今までの経験がないため、他校とはやはりその差は大きくなる。スポーツをすれば勝ちたいと考えるのは当然だ。勝利を目指すため、また人として大きくなるためクラブの必要性を考えるのである。

意見をお寄せください

メール：gikai@town.wakasa.tottori.jp
ＦＡＸ：0858（82）2222

スポーツを通して子どもの育成を

上川　和弘さん
（上町）

若桜町は、昔からスポーツが盛んで、スポ少は、全国大会に出場するなど、優秀な成績を収めてきました。

今は、子どもが減少し、寂しいことに池田小学校がなくなり、平成24年には、小中一貫校となることも決まっています。しかし、子どもは減っても、スポーツ少年団は、熱心な指導者、保護者、また、地域の方々に支えられ、すばらしい成績を残しています。

昨年も、県大会で準優勝、西日本大会出場など、立派な活躍でした。

我が子も、三人がスポ少にお世話になり、たくさんの事を学ばせていただきました。それと、同時に、保護者同士のつながりもできたと思います。おかげで長男は、甲子園に出場することができて、たくさんの方に応援していただき、ありがとうございました。

若桜町も少子化が進み、子どもが減っていますが、スポーツを通して、子どもたちが活躍し、頑張ることによって若桜町に活力が生まれてくれることを願いたいと思います。

あとがき

年末から新年にかけての気象台始まって以来の豪雪で、県内のスキー場でも雪崩事故により4人の方が亡くなられ（ご冥福をお祈りします）、営業休止となっています。同じようにスキー場を持つわが町も他人事ではありません。

国政では環太平洋戦略的経済連携協定（ＴＰＰ）等の参加問題が話題となっています。

また、新高齢者医療についても、現在の後期高齢者医療制度を、13年2月で廃止して国民健康保険へ8割の方が移行すると言われています。赤字が進み、将来的には国保税の値上げにつながるのではと心配です。

新しい編集委員も1年が経過し、発行する議会だよりも今回で5号となりました。編集方法等、内容も少しずつ変わっているのがおわかりいただけると思います。

今後もご愛読いただきますようお願いします。

議会だより調査特別委員会
議　長　岡本　和廣
委員長　前住　孝行
副委員長　中村　敏明
委　員　奈羅尾寿夫
委　員　山本　晴隆

発行・鳥取県八頭郡若桜町議会　TEL 0858（82）2212　FAX 0858（82）2222　HPアドレス http://www.town.wakasa.tottori.jp
編集・議会だより調査特別委員会　印刷・中央印刷株式会社